

第17回「文芸思潮」エッセイ賞 中間発表 一次・二次・三次予選

●第17回「文芸思潮」エッセイ賞に御応募いただき、まことにありがとうございます。おかげさまで、日本全国および海外から総数一六七編の作品をお寄せいただきました。心から御礼申し上げます。去る三月末日に締め切らせていただき、厳正な一次・二次・三次予選審査を行いました。その結果を謹んでここに発表させていただきます。無印は一次予選通過者、○印は二次予選通過者、◎印は三次予選通過者です。

北海道

◎「平岡小学校」 栗山佳子

◎「都忘れ」 はなはな

「ケガに強かった九十年代と七十年代」

◎「父の玉子とじ」 柴田節子

◎「甥の青春」 鎌田 誠

◎「サレヨ」 飯名碧水

◎「ケープテレビのチャンネルが増えてゆき」 瀧沢 鈴

◎「積み団子」 敷島 優

◎「ひょんと死ぬるや」 青地久恵

◎「三代鉄」 斎藤はな絵

◎「三浦」夫妻の校歌」 中村郁恵

◎「青森県」 石本祐子

◎「就労継続支援B型における「工賃」という呪い」 松橋雅鳳

◎「母の東京一九六四」 金田一淳

◎「若手県」

◎「プロフェッショナルとは？」 美馬 楓

◎「生きていて、生きるのが正解じゃないと思いつきながら、生きる」 原水

◎「小島秀雄の告別式」 西島雅博

◎「女医は何人殺したか？」 鈴木正治

◎「茨城県」

◎「嗣げない志」 上野 達

◎「父のザンネン」 諏訪崎はるえ

◎「タンゴの懸け橋となり世界へ翔く小原みなみにとって『タンゴ』それは人生」そして母子の共闘譜」 青柳みずす

◎「キンランの階段」 高尾周一

◎「スケート部『五部』」 武藤襄子

◎「風の揺らめき」 山本彩冬

◎「赤い椿」 前岡光明

◎「笑顔の達人たち」 戸浦次郎

◎「雨男との対決」 鈴木邦夫

◎「今」 松下 仁

◎「カーテンをしっかりとしめて」 丘田ミイ子

「『どうしよう』から『大丈夫』へ」 川井かおる

◎「彼方の我が家」 稲葉真季

◎「背の高い男の子、胸の大きい女の子」 八月一日

◎「世界のヒロシマ」 とある女子高生

◎「ジュエリー」 ミーハー

◎「新聞と私」 佐生綾子

◎「君死に給うこと勿れ」 岩崎 裕

◎「神奈川県」

◎「夫が撮ったアフリカライオン」 松原泰子

「朝起きると雪だった」 福井雅人

◎「結局ブラック企業」 三上櫻子

◎「返信」 相澤真理子

◎「奇妙な依頼」 平尾富雄

◎「燃え尽きる小児科医」 秋谷進

◎「思い込み」 風早 爽

◎「父」 須子道子

◎「父は語らず」 友 修二

◎「群馬県」

◎「主婦売春の汚名を着せられた」 紙屋里子

◎「つれづれ日記」 楠カエダ

◎「墓終い」 村松佐保

◎「埼玉県」

◎「逃げるが勝ちって最高の言葉」 三日月李衣

◎「人のこころには闇がある」 峰川修一

◎「くすり」 小島恒夫

◎「循環」 七尾美日

◎「兄」 益田和則

◎「鬱の手記」 北川 聖

◎「長崎の坂」 風間麗子

◎「千葉県」

◎「善意の表し方」 平野靖雄

◎「まろと私」 古池真矢

◎「騙されたほうが悪い？」 高橋ひとみ

◎「正解と友達」 田中 紬

◎「人体の精妙さ」 森田洋史

◎「泣きだした夢」 本間直也

◎「手話通訳者は言語通訳者か？」 横山典子

◎「父に近づく」 野澤一彦

◎「あつ君も卒業したよ」 倉沢辰子

◎「長野県」

◎「公募文学賞投稿日乗」 渡辺 勝

◎「三母が繋ぐ六連銭」 山家衛良

◎「シベリア鉄道の旅1974」 竹本祐子

◎「桜の聲を聞く前に」 中條 響

◎「岐阜県」

◎「婚礼布団一式の引越し」 平岡佐一郎

◎「玉の緒」 秋葉みのり

◎「コーヒーと歴史について」 小森敦也

◎「静岡県」

◎「紙芝居へ込めた想い」 春木美子

◎「愛知県」

◎「シャツをはいた友」 菱川町子

◎「無限電車さん」 涼宮さき子

◎「ガーベラ」 薫衣さゆり

◎「パパたちのルール」 外山記代子

◎「フアスト」 宮尾美明

◎「父のペトナム」 沖田陽介

◎「紀州叙事詩―朝来から中辺路―」 花井正子

◎「母の物語を求めて」 魔子

◎「ホクロ美人」 菱川町子

◎「沖繩への旅」 北原 岳

◎「推し活に走るワケ」 青山珠己

◎「ははの記憶」 岩田ふじこ

「日本らしさと3月上旬」 高戸一

◎「悟りについて」 蜷川無涙

◎「東京都」

◎「冬の花」 宮下さつき

◎「嘘の箱」 マツイアキラ

◎「あわや、特殊詐欺に遭いかけて」 牧 康子

◎「振り返れば儂く純粋だった女」 河上美智子

◎「食」―学生時代の思い出― 野宮健司

◎「傍らで」 姉齒浩一

◎「二刀流」 九条之子

◎「全人間で生きろ！」 小島凜檜

◎「メキシコの地下鉄」 本間芳江

◎「母の残したつれづれ記」 松谷直美

「寅さんに癒やされて」 黒岡 實

◎「かわれサラダ」 小谷 桜

◎「誘われて北海道旅行」 松井理恵

◎「紙ふうせん」 平本節子

◎「根源乃手、吉本隆明と吉増剛造をめぐって」 弟子丸博道

◎「揚げパンの幽霊」 小島遊要

◎「あいつのメロデー」 ツキノマコト

◎「試着室の悪夢」 高倉麻耶

◎「滋賀県」

◎「上書き保存しますか？」 南条明洋

◎「東京都府」

◎「白い肌の記憶から」 植田郁子

◎「今だから話せるベニヤ板の思い出」 林 須磨

◎「新しい京都へ」 大幸信明

◎「お空の記憶」 林真希子

◎「大阪府」

◎「鍵の開いていた部屋」 森崎律子

◎「最南端高校・教師おとひめ」 藤田 侃

「喫煙者たる同士諸君へ」 海東俊介

◎「オマール君の墓」 田中美晴

◎「夫の実家の片付け」 ひろこ

◎「夢解き」 山田まさ子

◎「生きやすい未来に向けて」 こいちちゃん

◎「生まれて来れなかった命」 麻祈

◎「僕らのムサコ生活」 大木寛之

◎「兵庫県」

◎「夜の街」 水田賢一

◎「心残りだったろうなあ」 三木俊平

◎「ステキな約束」 高瀬昌仁

◎「決断」 われもこう

◎「ボテ投げ」 部屋都地葉

◎「父」 須子道子

◎「燃え尽きる小児科医」 秋谷進

◎「思い込み」 風早 爽

◎「群れ」 田中浩司

◎「苦境に立たされた兄弟を想う」 佐高 源

◎「山梨県」

◎「母の物語を求めて」 魔子

◎「ホクロ美人」 菱川町子

◎「沖繩への旅」 北原 岳

◎「決断」 われもこう

◎「ボテ投げ」 部屋都地葉

エッセイ賞応募者の皆様へ 第一次・第二次・第三次の選考基準について

●第17回「文芸思潮」エッセイ賞への御応募まことにありがとうございます。第一次・第二次・第三次選考について選考委員会より付記させていただきます。

第一次の選考基準は、他者に対して伝わる文章になっているかどうかが最重要の基準点です。しかし書く姿勢も加味させていただきました。少し文章が粗くても、他者に訴えたい切実なものが感じられる作品は一次を通過しています。また逆に文章は整っていても、書く姿勢に曖昧なもの、書く必然性が希薄なもの、中途半端なものは落とさせていただきました。この二点をクリアしたものが一次予選通過者です。何%とか、何篇以内とか、数字の枠はありません。したがって、応募者全員が一次予選合格ということもありません。

また第二次予選は、その中でさらに強く何かが感じられるもの、光るものを選びます。何かが読み手の中に残っている作品ということになります。内容でもいいですし、文章でもいい、一行でもいい、一人の人物でもいい、見方でもいい、何か一つ心に残るようなものがあると、上に拾い上げたくなるという、一つの魅力を持っているかどうかポイントになります。

第三次予選は、よりたくさんの人に読んでほしいくなるような普遍的な力を備えているかが、選考の基準になります。第三次予選まで通過した作品は、だいたい雑誌に載ってもいい、人に読んでもらっても何か訴える力を備えていて、読んだ人の心に何かが残って新たな力になるような作品です。「文芸思潮」選考委員会では、選考の便宜性を重視して作品数によって制限するのではなく、作品の内容を重視して、優れた作品がたくさんあれば、できるだけその作品の価値やレベルによって、作品を残すよう心がけています。したがって、場合によってはたくさんさんの作品が三次予選、さらにその上に選出される可能性もあります。

今年第17回も三次予選通過者が多く、応募作品全体の水準が上がっていることを実感しております。もっと詳しく御自分の作品への感想・批評が聞きになりたい方は、作品個別の「批評コメント」もご利用いただけます。どうぞ御希望をお送り下さい。

〔文芸思潮〕エッセイ賞選考委員会

- 奈良県 ○「本のある風景」 中牟田智子
- 岡山県 ○「終に見た手鏡」 家森澄子
- 「息子へ 神にゆだねること うつ、神経症克服のために」 岩崎彷徨
- 広島県 ○「挽歌」 苑田有子
- 「母へ・・・今夜、待っているからね」 皆月はつや
- 徳島県 ○「消えた弾」 虎姫
- 「苦難を越えて」 熊谷和代
- 香川県 ○「首吊り遊戯」 六枝オリヒメ
- 福岡県 ○「父母と私」 田浦チサ子
- 「母恋」 安部としき
- 「新「たら・れば」宣言」 武中彩
- 「散りても咲く百合の花」 久利潤保
- 「今しかない感情を書く」 えりー
- 「酒よ、酒飲みよ」 西尾吉之助
- 「髪は悩ましい」 古野明子
- 「四日先の未来」 荒木景子
- 佐賀県 ○「レッツ！ノルディックウオーキング」 松尾直幸
- 長崎県 ○「ウィズコロナに向かって」 常風ハル
- 熊本県 ○「星の旅人」 神谷 恵
- 「何も得られなかった実感」への肯定に関して」 古井ふきこ
- 大分県 ○「里山暮らしの楽しみ」 東山里子
- 宮崎県 ○「切り株を」 エビハラ
- 「最終章」 中武 寛
- 鹿児島県 ○「すわコロナか コロナ下の入院」 宮島孝男
- 海外 ○「ウンドウカイという名のフェスティバル」 末永卓幸



広告承ります

文芸思潮の読者に 文学愛好者に
知らせたい情報を掲載します

広告掲載料 文芸思潮●発行部数 1000 部

1P	4万円	
1 / 2P	2万円	
1 / 4P	1万円	1 / 6P 7000円
表4カラー	12万円	
表2・表4	8万円	

その他御相談に応じます。ご連絡ください。

文芸思潮広告部 ☎ 03-5706-7847 mail: bungeisc@asiawave.co.jp

小説の書き方を体験を踏まえて丁寧に解説する小説指導書

小説の書き方

——作家を志す人のために——

五十嵐 勉

税込 1000 円 御注文はアジア文化社まで